

イメージを形に - 石けんを使って抽象彫刻 -

概要 (めあて、学びの目標を含む)	○身近なものの特徴を捉え、単純化や省略、抽象化して表したいものを構想し石けんを使って立体に表す。 ・石けんを使った立体の造形に関心をもち、彫る部分により彫刻刀などの種類を使い分け、創意工夫して制作する。 ・身近なものから特徴やおもしろさなどを捉え、単純化や省略、抽象化して、自分のイメージを構想する。 ・構想したイメージを基に、石けんの特性などから制作の順序を考え、見直しをもって立体に表現する。 ・制作した作品を互いに鑑賞し、よさや工夫について意見交換する。
評価規準	知形の性質や感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解している。 技制作の意図に応じて、彫刻刀などの特性を生かし表現方法を工夫し見直しをもって表している。 発身近なものの特徴から主題を生成し、単純化や省略、抽象化を考え、表現するイメージの構想を練っている。 鑑抽象彫刻のよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 題単純化や抽象化に興味をもち、彫刻の鑑賞や制作の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

■主な準備物

【生徒】・彫刻刀 (カッターナイフ、デザインナイフなど) ・軍手 ・タブレット端末

【教師】・石けん

■学習の流れ

段階	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入 30分	○ P.122・123≫ 形と色の探求を参照し、モンドリアンの抽象化への探求やムーア、ブランクーシの彫刻を鑑賞し、単純化や省略、抽象化について知る。 ○身近なもの、例えば自分の興味のあるものやクラブ活動で使うものなどの形を単純化や省略、抽象化して彫刻を構想する。	○1つのものではなく複数の組み合わせやものの動きを形として表現することを考えさせてもよい。 ○ P.69≫ 短時間でつくる 石けんを使って抽象彫刻をつくるの作例などを参照し、石けんは軟らかい材質のため、細かい表現は適さないことを確認させる。 ○構想をスケッチさせる。	態 鑑 表	【発言・活動の様子】 【発言・活動の様子】 【ワークシート】
展開 50分	○おおまかに全体の形を彫る。 ○底面をどこにするかや倒れないようなバランスなど、置くことを意識して制作する。 ○制作途中の作品記録をタブレット端末で撮影する (客観的に形を確認する)。 ○石けんは割れやすいので慎重に彫り進めて仕上げる。	※石けんを持つ手は、軍手をつけて制作するように指導する。 ○ P.69≫ 抽象彫刻をつくらうなどを例に、全体から部分へと彫り進める手順を確認させる。 ○必要な部分が大きく欠けたり、割れたりした場合は、断面に少し水をつけて押さえておくと接合できる。	態 表 知	【活動の様子】 【制作中の作品】 【制作中の作品】
まとめ 20分	○作品に題名を付ける。 ○タブレット端末で完成作品の写真を撮影する。 ○作品写真のデータを共有し相互鑑賞する。 ○感じ取ったことについて意見交換する。	○単なる記録写真ではなく、作品が美しく見える角度や方向などを意識して撮影させる。 ○作品写真のデータ共有ができない場合は、作品を並べて相互鑑賞させる。	態 知 鑑	【活動の様子】 【ワークシート】 【ワークシート】

◆指導のヒント

彫刻題材は、彫る活動に多くの時間を要し、指導時間が長くなりがちである。本題材では、軟らかく彫りやすい素材として「石けん」を用いることによって、短時間の題材としている。石けんは100円ショップなどでも入手でき、家庭学習としても実施できる。授業で実施する場合は、P.69≫いろいろな材料に示したスタイルフォームを使用することも考えられる。

◆指導のポイント

ここでは、中学生にも比較的考えやすい、身近にあるものなどの具体物の単純化や省略、抽象化などから発想・構想し、彫り進める内容の授業展開とした。彫造による立体表現は、計画的な制作が求められる。

一方で、抽象彫刻の発想については、実在しないイメージなどを基にすることも可能である。オノマトペや味覚など目には見えないものから発想・構想し、試行錯誤しながら制作する題材は、粘土などを使った塑造の方が指導しやすい。

〔ワークシートの例〕

「表現の基になるもの」

自分の作品の題名：
工夫したところ
制作して感じたこと

うまくいかなかったこと
改善点

【アイデアスケッチ】
(単純化・省略・抽象化)

「友達の作品①」名前
題名：
よさや工夫：

「友達の作品②」名前
題名：
よさや工夫：

組 名前